

毎日新聞 コラム「三重～る経済」

掲載日 2023年4月25日

タイトル 「省エネ」「創エネ」の建物

執筆 百五総合研究所 小林ゆかり

大手うどんチェーンの丸亀製麺は1月、国内の外食企業で初となる「ZEB(ゼブ)」「認証店舗を鈴鹿市内にオープンした。ZEBとは、Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略。高断熱化や日射の遮蔽<sup>しやへい</sup>、自然エネルギーの利用、高効率設備の採用などによる「省エネ」と、太陽光発電などの「創エネ」で、石油や天然ガス、石炭など一次エネルギーの年間消費量をゼロとする建物を指す。エネルギー削減率の達成状況に応じて、100%以上は「ZEB」、75%以上は「Nearly ZEB」、50%以上は「ZEB Ready」、さらに建物用途によって30%または40%以上は「ZEB Oriented」と分類される。同店の建物は、エネルギー消費量106%削減を実現し、ZEB認証を取得した。

先日、筆者も同店で食事をしたが、店舗の外観を見ると、屋根やカーポートに多数の太陽光パネルが設置されていた。

運営会社の話では、環境負荷低減への取り組みを進める中で、約830店の既存店舗から、立地環境や屋根面積などの条件が最も適していた鈴鹿店を「環境配慮型店舗」としてZEB化することに決めたそう。今後の新店舗計画には、同店で採用した省エネ・創エネ技術の導入を検討していくという。

こうしたZEB化の取り組みは、民間企業のビルや商業施設に限ったことではない。県が昨年度改定した「三重県地球温暖化対策総合計画」においても、県が新築する建物は原則「ZEB Oriented相当以上」を目指すとされている。県によると、現時点でZEB化された県の施設はないものの、今後計画する建物には、導入を進めていくという。

建物自体でエネルギー収支ゼロを実現する「ZEB」は、カーボンニュートラルの取り組みにおいて、ますます重要になる。災害時のエネルギー確保にも有効であり、公共施設、民間施設ともに今後の広がり注目したい。